



崖の上がナザレの旧市街



ナザレの銀海岸リゾート



ディアナ神殿とエヴォラ大聖堂



エヴォラ市長と南島原市の少年



コインブラ大学の本部



モンデゴ川からコインブラ旧市街を望む



ベレンの塔（世界遺産）



ジェロニモ修道院の回廊

（平） 次に、大西洋に面したナザレに向かう。昔、聖母マリアが現れたという伝説からここに教会が建てられ巡礼地になった。今では、断崖から大西洋を望むヨーロッパ屈指のリゾート地になっている。

（天） 天正使節はローマからの帰路、巡礼者としてナザレを訪れている。

（平） 次に訪れたコインブラは13世紀までポルトガルの首都で、フランシスコ・ザビエルゆかりの大学が街の中心を占めている。

（天） 天正の少年たちはローマ法王謁見の成果に、意気揚々とコインブラを訪問した。クリスマス直前だったこともあり、イエズス会の後輩たちを大学伝統の手荒い歓迎でもてなしたという。市民を交えた歓迎の宴は2週間におよんだ。

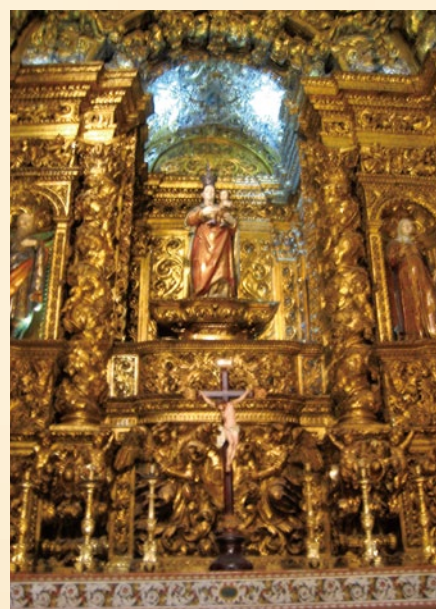
（平） この大学で薩摩出身のバルナル

ドという日本人が神学を学びこの地で没したという。日本人初のヨーロッパ留学生である。地元の古老からベルナルドの墓に案内されたが、単身で苦学した日本人がいたことに一同感銘を受けたのだった。

8月6日、リスボンに戻ってきた。天正の少年使節がリスボンに上陸した日が8月11日だったから、同じ季節である。我々はテジョ川の河口に建つ世界遺産ベレンの塔に案内された。ヴァスコ・ダ・ガマのインド発見を称えて建設された世界遺産で、リスボンの入口に当る。その後、天正の使節が宿舎にしたイエズス会のサン・ロケ教会を訪れた。かつてリスボンを一望できた高い塔

は1755年に起きた大地震で崩壊して今はない。教会のファサードはごく地味だが、一歩足を踏み入れると左右に並ぶ祭壇は黄金に輝き、息をのむほど華麗である。

（天） 少年たちの滞在は1ヵ月におよび、苦難の航海の疲れを癒したのだった。多くの建築物特にジェロニモ修道院はお気に入り、たびたび訪れている。



サン・ロケ教会の祭壇



平成の訪問団が訪れたポルトガルの都市

リスボン郊外の丘の上にあるシントラ宮殿は、歴代のポルトガル王が避暑地を選んだ別天地である。今では世界遺産に登録されている。

（天） スペイン王から統治を任されていたアウストリア枢機卿に謁見し、日本の教会へ資金支援を依頼するのが目的で天正の4少年はここを訪れた。

（平） 当時のポルトガルは国土の数千倍の植民地を持つ黄金時代だった。戦国時代の日本とは、天と地ほど違つて見えただろう。イエズス会の修道院を改装した市庁舎には、ドリヴェイラ市長が我々一行を待ちかねていた。在ポルトガル日本大使の四宮氏も同席した。エヴォラ市長が歓迎のあいさつで「南島原市が若い学生を組織し、エヴォラを訪問したことは両市の関係に明るい未来を開いた。天正時代に少年たちが過ごしたエヴォラを体験して、新たな歴史を築いて欲しい」と、メッセージを伝えた。

（天） 天正の少年達の場合はエヴォラの大司教に迎えられた。日本での布教活動を「イエズス会通信」で伝え

た人で、少年たちの来訪を特別な感慨で迎えた。エヴォラ大学を宿舎にした少年たちは、ローマからの復路でも滞在している。

（平） エヴォラ市が選んだ地元の子どもたち8人も加わり、世界遺産のエヴォラ大聖堂を見た。かつて、千々石ミゲルと伊東マンショが弾いたという大聖堂のパイプオルガンが演奏され、430年前に思いを馳せたのだった。エヴォラ大学やサン・フランシスコ教会、ラプラタ水路など数々の世界遺産を見学した。明日はシントラに向かう。



シントラ宮殿

世界遺産のまち「ポルトガル エヴォラ」へ